(様式第 9)

埼医大病庶第 62 号
平成 25 年 10 月 1 日

関東信越厚生局長　殿

開設者名　学校法人　埼玉医科大[redacted]
理事長　　丸木　清治[redacted]

埼玉医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務に関して報告します。

記

1　高度の医療の提供の実績　→　別紙参照 (様式第 10)
2　高度の医療技術の開発及び評価の実績　→　別紙参照 (様式第 11)
3　高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	63.5人

(注)　前年度の研修医の実数を記入すること。
4　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
　　→　別紙参照 (様式第 12)
5　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
6　他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
　　→　別紙参照 (様式第 13)
7　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　種	常 勤	非常勤	合 計	職種	員 数	職種		員 数
医　　師	349人	158人	381.6人	看護補助者	78人	診療エックス線技師		0人
歯科医師	12人	16人	15.8人	理学療法士	24人	臨床検査	臨床検査技師	72人
薬剤師	67人	0人	67人	作業療法士	13人		衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	8人		その他	0人
助産師	30人	1人	30.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師		0人
看護師	778人	28人	798.1人	臨床工学技士	29人	医療社会事業従事者		16人
准看護師	43人	6人	47.5人	栄養士	22人	その他の技術員		18人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯科技工士	3人	事務職員		131人
管理栄養士	28人	0人	28人	診療放射線技師	51人	その他の職員		99人

(注)　1　報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
　　2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
　　3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8　入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	702.0 人	5.3 人	707.3 人
1日当たり平均外来患者数	1589.7 人	38.5 人	1,628.2 人
1日当たり平均調剤数	外来　406.0剤 入院　676.3剤	合計　1,082.3剤	

(注)　1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	7人
実物大臓器立体モデルによる手術支援	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注1）「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注1）「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注2）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第 10）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療　　No.1

医療技術名	多発性骨髄腫に対するプロテアソーム阻害薬による治療	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要 多発性骨髄腫（初発及び再発）に対して、プロテアソーム阻害薬であるボルテゾミブを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。また、寛解が得られた症例については、分子生物学的手法により微小残存細胞についての評価を行う。			
医療技術名	多発性骨髄腫に対する免疫調整薬による治療	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 再発・難治性の多発性骨髄腫に対して、免疫調整薬であるサリドマイドあるいはレナリドミドを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。また、造血幹細胞移植併用大量化学療法後の症例にも、維持療法として用い、その有用性を検証する。			
医療技術名	骨髄異形成症候群に対してのアザシチジン治	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 高リスクあるいは輸血依存性の骨髄異形成症候群に対して、メチル化阻害薬であるアザシチジンによる治療を行い、有効性・安全性を検討する。			
医療技術名	低悪性度リンパ腫に対するベンダムスチン治療	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 再発・難治性の低悪性度リンパ腫に対して、新規抗腫瘍薬であるベンダムスチンによる治療を行い、有効性・安全性を検討する。			
医療技術名	特発性血小板減少性紫斑病に対してのトロンボポエチン受容体作動薬を用いた治療	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要 難治性の特発性血小板減少性紫斑病に対して、トロンボポエチン受容体作動薬であるエルトロンボパグあるいはロミプラスチムを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。			
医療技術名	発作性夜間ヘモグロビン尿症に対するエクリズマブ療法	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 発作性夜間ヘモグロビン尿症に対して、補体活性化経路のＣ５に作用するヒト化Ｃ３ブロッキングモノクローナル抗体であるエクリズマブを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。			
医療技術名	免疫性神経疾患のリンパ球サブセット・サイトカインからみた診断	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 非ヘルペス性辺縁系脳炎を中心として脳炎・脳症の発症、進展にかかわる免疫機序の関与について、末梢血リンパ球サブセットならびに髄液サイトカインを検討し診断、治療に役立てている。			
医療技術名	発汗障害患者に対する軸索反射性発汗機能の検討	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要 各種発汗障害患者に対し、軸索反射性発汗試験を行い発汗系交感神経節後機能を検討し診断、治療に役立てている。			

（注）当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（様式第 10）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療　　No.2

医療技術名	各種自律神経疾患における血圧・心拍の周波数解析	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 各種自律神経疾患患者の血圧・心拍数を連続記録し、血圧・心拍の周波数解析を行っている。これらの結果から、交感・副交感神経機能を検討し、病態把握に役立てている			
医療技術名	各種自律神経疾患における交感神経性皮膚反応検査	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要 各種自律神経疾患患者に本試験を実施することにより精神性発汗を検討している．この検査によって発汗の反応経路（中枢神経～末梢神経～汗腺）における障害の有無を明らかにし，診断，治療に役立てている。			
医療技術名	総胆管結石および胆管内腫瘍における術中胆管内内視鏡超音波検査	取扱患者数	85 人
当該医療技術の概要 総胆管結石の遺残の有無や胆管内腫瘍の局在や浸潤の程度などを手術中に検査でき、通常の超音波検査に比べ有用性が高い。			
医療技術名	新たな電気メス（エンドカット）を用いた乳頭括約筋切除術	取扱患者数	55 人
当該医療技術の概要 従来の乳頭括約筋切開法に比べ、凝固と切開が自動的に制御され、安全に出血が少なく切開できる。			
医療技術名	ハーモニックスカルペルを用いた痔核切除術	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要 従来の電気メス、ハサミを用いた痔核切除術に比べ、出血量が少なく手術時間も短縮でき、術後疼痛が軽減する。			
医療技術名	ミトコンドリア病（ミトコンドリア呼吸鎖異常症）の酵素診断	取扱患者数	250 人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア呼吸鎖異常症は、いかなる症状、いかなる臓器・組織、何歳でも、そしていかなる遺伝形式でも発病し、出生 5,000 人に 1 人とされる最も高頻度の先天代謝異常症である。私たちは細胞、臓器、組織を用いた呼吸鎖酵素解析法を開発し、日本で唯一ミトコンドリア呼吸鎖異常症を正確、迅速に診断できることを可能にした。			
医療技術名	高頻度振動換気療法（HFO）	取扱患者数	70 人
当該医療技術の概要 新生児における呼吸窮迫症候群などの重症呼吸障害の際に使用し、自発呼吸に依存せず高頻度振動を用いて換気を行う結果、新生児の未熟な肺の損傷を軽減し換気を行うことができる人工換気法である。			

（注）当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること

（様式第 10）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療　　No.3

医療技術名	脳低温療法	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要 新生児仮死で出生した児の脳に対するダメージを最小限に止めるため、出生時より脳を低温に保つ治療法（34℃、72 時間）。			
医療技術名	アフェレーシス	取扱患者数	56 人
当該医療技術の概要 自己抗体に関連した血管炎に対する抗体除去療法としての全血漿交換、敗血症症例に対するエンドトキシン吸着、劇症肝炎に対する人工肝臓としての血漿交換・持続血液濾過透析、インターフェロン療法抵抗性、高ウイルス血症に対する DFPP、自己免疫性神経疾患に対する免疫グロブリン吸着療法など、あらゆる血液浄化法を提供している。			
医療技術名	持続血液濾過透析（小児を含む）	取扱患者数	105 人
当該医療技術の概要 血行動態の不安定な重症症例に対する持続血液濾過透析療法に関して、24 時間対応可能な体制を維持している。専用の集中治療室（renal intensive care unit）を備え、透析の専門知識を有する医師・看護師・臨床検査技師が常駐している。1 歳未満の小児に対して、腹膜透析が困難な場合、小児科・小児外科と連携し、持続血液濾過透析を施行している。			
医療技術名	関節リウマチならびに自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与	取扱患者数	263 人
当該医療技術の概要 多剤抵抗性の関節リウマチや難治性の自己免疫疾患に対して、TNFα，IL6 や CD28（Tcell）の阻害療法が有用であることが知られている。当科でもこれら生物学的製剤を投与することにより、従来の治療法では困難だった関節リウマチ患者の関節破壊の抑制や患者 QOL の改善、自己免疫疾患の炎症反応の抑制が可能となった。今後製剤の追加や適応拡大が期待されており、一層有効な治療法になると考えられる。			
医療技術名	体外受精	取扱患者数	26 人
当該医療技術の概要 原則として、体外受精・胚移植法は、これ以外の医療行為によっては妊娠成立のみこみがないと判断される場合に行われる治療である。具体的には、 ・一般的な不妊治療であるタイミング法、排卵誘発法、人工授精等を十分行ったが妊娠できなかった夫婦。 ・精子濃度が低い、精子運動性が不良など、男性因子がある場合。 ・両側卵管切除後の場合や、子宮卵管造影検査／腹腔鏡検査により両側卵管の閉塞や癒着による機能障害が確認された場合。 ・抗精子抗体が陽性で、人工授精では妊娠できない場合。 などが適応となる。 体外受精・胚移植法は、卵巣で発育した卵子を体外に取り出し（採卵）、精子と受精させ（媒精）、数日間体外で育て（培養）、得られた受精卵（胚）を子宮内に戻す（胚移植）方法により、妊娠成立を目的とする不妊治療である。			

（注）当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること

（様式第 10）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療　　No.4

医療技術名	顕微授精	取扱患者数	8 人

当該医療技術の概要

原則として、顕微授精は、これ以外の医療行為によっては妊娠成立のみこみがないと判断される場合に行われる治療です。具体的には、

・体外受精を十分行ったが受精卵が得られなかったり、良好胚が得られなかった場合
・精子濃度が極めて低い、精子運動性が極めて不良など、高度男性因子がある場合
・精巣内精子、精巣上体精子を用いる場合
・精子－ 透明帯／卵細胞膜貫通障害
・抗精子抗体陽性の場合

などが適応となる。

採卵した卵を前処理した後、顕微鏡下で保持する。この卵に同じく前処理した精子を細いガラス管で注入する。この方法により受精能力の低い精子でも受精させることができるようになってくる。精液中に精子が全く見つからない場合には、精巣から組織を採取してその中から精子を回収し、顕微授精を行う方法(TESE)もある。

採卵数が多く、精子の受精能力がやや低いことが考えられる場合に、採卵した卵を 2 組に分けて半分を通常の受精方法、半分を顕微授精にすることがある。

医療技術名	性器脱に関するメッシュ手術	取扱患者数	53 人

当該医療技術の概要

TVM 手術(Tension-free Vaginal Mesh 手術)は、膣の壁の下に、ポリプロピレンメッシュのシートを挿入し、そこから足の付け根や殿部(おしり)の小さな傷(各 5mm 程度、膣の前壁だけなら 4 カ所、後壁もする時は合計 6－8 カ所)にメッシュの腕(メッシュの端からのびた巾 2cm の紐状の部分)を通して、骨盤底の支持組織を強化する術式。原則として子宮はとらない。手術負担が小さいこと(入院期間が短く、傷の痛みが少ない)、再発が少ない(6%)ことから、欧米で普及しつつあり、日本でも導入する施設が増えてきた。

医療技術名	骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対する経皮的人工骨注入法	取扱患者数	4 人

当該医療技術の概要

陳旧性の骨粗鬆症性圧迫骨折に対しては、内固定金属を用いた侵襲の大きな手術が必要であるが、低侵襲な手技で早期社会復帰を目指している。

（注）当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（様式第 10）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療　　No.5

医療技術名	音響鼻腔計測法	取扱患者数	97 人
当該医療技術の概要 音響を利用した短時間に非侵襲的に鼻腔断面積を測定できる。抗アレルギー薬など鼻閉に対する薬効の客観的評価、手術前後の鼻腔開大効果の客観的評価などに用いている。			
医療技術名	人工内耳	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要 補聴器で十分な聴力改善の得られない高度感音難聴患者に対して、デバイスを内耳に留置し、術後のリハビリを経て聴力を獲得する。			
医療技術名	音刺激による前庭誘発頸筋電位検査 (vestibular evoked myogenic potentials:VEMP)	取扱患者数	22 人
当該医療技術の概要 VEMP 検査は前庭脊髄反射に対する検査法のひとつである。クリックあるいはトーンバースト音刺激を用い、胸鎖乳突筋に現れる筋電位の変化を記録する方法である。この刺激の伝達には、球形嚢から下前庭神経、さらに前庭神経核を経由して前庭脊髄路を下行し、頸筋に達する経路が推定されている。内耳機能の評価、前庭神経障害の評価、さらに下部脳幹障害の評価法となり得る可能性がある。			
医療技術名	良性発作性頭位めまい症に対する理学療法	取扱患者数	60 人
当該医療技術の概要 良性発作性頭位めまい症の病態に関しては、クプラへの耳石片の付着（クプラ結石症）、あるいは三半規管内の浮遊耳石（半規管結石症）が提唱されている。これらの諸説を念頭に置き、難治性の良性発作性頭位めまい症に対して、particle repositioning maneuver(Parnes 法、Epley 法)や liberatory maneuver（Brandt 法、Semont 法）などの理学療法を試みている。			
医療技術名	Qスイッチルビーレーザーを用いた皮膚色素性病変の治療、ならびに色素レーザーを用いた単純性血管腫の治療	取扱患者数	138 人
当該医療技術の概要 Qスイッチルビーレーザーはメラニンをターゲットとし、太田母斑や他の真皮メラノサイトーシスなどの治療として有効である。色素レーザーは赤血球をターゲットに血管内皮に損傷を与える治療で、単純性血管腫やほかの毛細血管拡張に対し有効である。おのおの第１選択として行っている。			
医療技術名	天疱瘡に対する大量免疫グロブリン療法	取扱患者数	0 人
当該医療技術の概要 通常の治療に抵抗性の難治性症例に対し、有効である。原因となるデスモゾームに対する抗体の産生抑制、異化亢進が作用機序として考えられている。			

（注）当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（様式第 10）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療　　No.6

医療技術名	皮膚悪性腫瘍に対するドップラー超音波診断	取扱患者数	90 人

当該医療技術の概要

皮膚悪性腫瘍では、悪性黒色腫やエクリン汗孔腫、その他いくつかの腫瘍での血管新生の特徴が明らかになりつつあり、多種にわたる皮膚腫瘍の無侵襲の検査として、鑑別診断のうえで、極めて有効である。

医療技術名	尋常性白斑、尋常性乾癬、菌状息肉症に対する narrow band UVB 治療	取扱患者数	5 人

当該医療技術の概要

narrow band UVB の有用性が知られており、尋常性白斑、尋常性乾癬、および菌状息肉症に対し行っている。

医療技術名	ＦＯＰ遺伝子解析	取扱患者数	14 人

当該医療技術の概要

FOP は、2007 年 3 月に厚生労働省特定疾患対策懇談会において難病の 1 つとして認定された疾患で、筋組織が骨化する疾患として知られる進行性骨化性線維異形成症（Fibrodysplasia Ossificans Progressiva, FOP）である。

小児期に腫瘤が形成されたために癌と診断されたケースが 30%程度あることが判明しており、このような背景には、FOP の迅速で正確な診断法が確立されていなかったことが挙げられる。しかし、2006 年、FOP 患者に ACVR1/ALK2 遺伝子の中に共通する変異を持つことが報告された。遺伝子診断は、FOP の異所性骨化の発症前でも可能である上、迅速・正確な検査である。

発症機序の解明および治療法の確立を目指す上では欠かせない検査である。

医療技術名	レーベル病遺伝子解析	取扱患者数	1 人

当該医療技術の概要

レーベル病の検査は、蛍光眼底造影、視力検査、視野検査、画像検査、電気生理学的検査、心電図検査、遺伝子検査が行われる。

レーベル病の急性期では、通常両目に異常が認められ、視神経乳頭は発赤、腫張し、血管は著しく拡張している。

委縮期では、視神経乳頭の耳側の蒼白化が進行し、血管の拡張はみられなくなる。

視神経乳頭の変異、比較的急激な視力低下と遺伝子解析による特異的なミトコンドリアＤＮＡの変異を検査することによりレーベル病と診断する。

（注）当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（様式第 10）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療　　No.7

医療技術名	抗ＴＮＦ－α製剤に抵抗性の炎症性腸疾患症例おけるメシル酸ガベキサート併用投与の有効性	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 抗ＴＮＦ－α製剤は炎症性腸疾患に対する治療薬で血中ＴＮＦ－αの中和作用、また単球の膜結合型ＴＮＦ－αに結合してアポトーシスを誘導し、炎症反応を軽減する。しかし、反復投与により効果の減弱が指摘されている。メシル酸ガベキサートは膵炎や播種性血管内凝固異常の治療に使用される蛋白分解酵素阻害剤であるが、単球から多種のサイトカインが分泌される過程を抑制する。そこで、メシル酸ガベキサートを抗ＴＮＦ－α製剤に先行して投与し、単球の膜結合型ＴＮＦ－αの発現を増強し、アポトーシスを効果的に誘発し、抗ＴＮＦ－α製剤の治療効果の減退を改善し、治療効果を高めると考えている。ＩＲＢの許可を得て実施している。			
医療技術名	医療用アロンアルファを用いた胃静脈瘤の治療	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要 胃穹窿部静脈瘤出血は止血困難例が多く、より簡便に行える方法として、医療用アロンアルファの注入による硬化療法を行っている。ＩＲＢの許可を得ており、緊急時に行える体制となっている。			
医療技術名	肝性脳症に対するＢ－RTO を用いた治療	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要 門脈圧亢進症状に伴う異常血行路による頻回な脳症の発症を予防するため、血行改変を目的に、Ｂ－RTO バルーン下逆行性経静脈的塞栓術を行う。			
医療技術名	ミリプラチン製剤（ミリプラ®）と TAE 肝動脈塞栓療法の併用による肝細胞癌の治療	取扱患者数	199 人
当該医療技術の概要 ミリプラチン製剤とリピオドールの懸濁液を化学塞栓療法として肝癌治療に用いた場合、局所停滞率が高く、腎機能の悪い症例にも適応可能となり利点が高い事が知られている。更に、塞栓物質の注入を併用する事で腫瘍を阻血壊死させる率が高くなると考えられ、ＩＲＢの許可を得て行っている。			
医療技術名	重症型アルコール性肝炎に対する白血球（顆粒球）除去療法	取扱患者数	0 人
当該医療技術の概要 重症型アルコール性肝炎では、感染及び腎機能のコントロールが最も重要であり、生命予後に関与する。抗生剤投与、ベェノグロブリン製剤投与等でも感染コントロールがつかない時には、炎症を惹起するサイトカイン等の物質を取り除く白血球（顆粒球）除去療法が有効と考えられ、ＩＲＢの許可を得て実施している。			

（注）当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（様式第 10）

高度の医療の提供の実績

高度の医療の提供の実績　　No.8

医療技術名	C 型慢性肝炎の宿主側因子の検討―IL28 等	取扱患者数	75 人
当該医療技術の概要 C 型慢性肝炎の治療効果を規定する宿主側の因子として IL28 等の様々な要因がいわれている。倫理委員会を通し、C型慢性肝炎患者様の血液から採取した各要因を分析する事でＩＦＮ治療の効果判定、製剤の選択等に生かせると考えている。			
医療技術名	脳波定量分析およびマッピング	取扱患者数	368 人
当該医療技術の概要 脳波検査時に通常の計測、記録だけでなく、同時に脳波定量分析を行い、周波数帯域別に頭皮上分布の表示（マッピング）をする。これによって脳波の周波数帯域ごとの空間的変化を経時的に比較・検討することができ、薬剤性の脳機能異常や脳器質性疾患の検出、意識障害（せん妄等）の回復度判定などの臨床的判断を定量的な神経生理学的根拠に基づいて行うことができる。システムの保守・運営は臨床神経生理学会認定医・認定技師により行われている。〔施行件数〕			
医療技術名	修正型電気通電療法	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 静脈麻酔下で筋弛緩を十分に得た状態で頭部電気通電を行う、修正型電気通電療法（modified electro-convulsive theraphy(mECT)）を、麻酔科の協力のもと手術室において行っている。薬物療法に治療抵抗性の精神障害（うつ病等の感情障害や統合失調症等）対する有効性が多く報告されている治療法であるが、埼玉県西部における施行施設は当院だけであり、他施設では対応困難な難治性精神障害治療に関し、県内でその一翼を担っている。〔施行回数〕			
医療技術名	児童・思春期専門カウンセリング・療育訓練	取扱患者数	2,304 人
当該医療技術の概要 広汎性発達障害等の児童・思春期に対し、児童・思春期専門医による診療を中心に、臨床心理士によるカウンセリングや言語聴覚士による療育訓練を組み合わせ、専門的な診療を展開している。他施設では対応困難な児童・思春期診療に関し、法人内「かわごえこどものこころクリニック」と連携し、県西部において重要な役割を果たしている。〔カウンセリング件数 1,267 回、療育訓練件数 1,037 回〕			

（注）当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾　患　名	取扱患者数	疾　患　名	取扱患者数
・ベーチェット病	119人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	74人	・広範脊柱管狭窄症	25人
・重症筋無力症	122人	・原発性胆汁性肝硬変	1,135人
・全身性エリテマトーデス	2,622人	・重症急性膵炎	15人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	56人
・再生不良性貧血	11人	・混合性結合組織病	409人
・サルコイドーシス	240人	・原発性免疫不全症候群	59人
・筋萎縮性側索硬化症	27人	・特発性間質性肺炎	82人
・強皮症，皮膚筋炎及び多発性筋炎	1,009人	・網膜色素変性症	65人
・特発性血小板減少性紫斑病	144人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	5人	・肺動脈性肺高血圧症	23人
・潰瘍性大腸炎	417人	・神経線維腫症	171人
・大動脈炎症候群	25人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	16人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	26人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	14人
・脊髄小脳変性症	63人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	124人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	11人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	41人	・脊髄性筋委縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	963人	・球脊髄性筋委縮症	5人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	24人
・アミロイドーシス	40人	・肥大型心筋症	33人
・後縦靱帯骨化症	34人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	0人	・ミトコンドリア病	12人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	18人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	516人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	22人	・黄色靱帯骨化症	7人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	35人	・間脳下垂体機能障害(PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	869人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人		

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・胎児心超音波検査	・
・超音波骨折治療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法（平成六年厚生省告示第五十四号）に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	大学全体として年間6回（2ヶ月に1回） 各科毎として週1回程度（年間約50回）
剖検の状況	剖検症例数　45例　／　剖検率　13.08%

（様式第 11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

No.1

研究課題名	研究者氏名	所　属　部　門	金額	補助元又は委託元
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	持田　智	消化器内科・肝臓内科	3,000 千円	(補) 厚生労働省科学研究費 委
がん化学療法及び免疫抑制療法中のＢ型肝炎ウイルス再活性化予防対策法の確立を目指したウイルス要因と宿主要因の包括的研究	持田　智	消化器内科・肝臓内科	10,000 千円	(補) 厚生労働省科学研究費 委
Ｂ型肝炎ウイルス感染の病態別における宿主因子等について、網羅的な遺伝子解析を用い、新規診断法及び治療法の開発を行う研究	持田　智	消化器内科・肝臓内科	1,000 千円	(補) 厚生労働省科学研究費 委
経口感染によるウイルス性肝炎(A型及びE型)の感染防止、病態解明、遺伝的多様性及び治療に関する研究	中山　伸朗	消化器内科・肝臓内科	1,000 千円	(補) 厚生労働省科学研究費 委
次世代シーケンスを用いた日本人1型糖尿病における新規感受性SNPの同定	粟田　卓也	内分泌内科・糖尿病内科	800 千円	(補) 文部科学省科学研究費 委
日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究(JDCS)	片山　茂裕	内分泌内科・糖尿病内科	800 千円	(補) 厚生労働省科学研究費 委
インスリン感受性機構と脂肪酸の質との関係の解明	保坂　利男	内分泌内科・糖尿病内科	1,800 千円	(補) 文部科学省科学研究費 委

計 7

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

（様式第 11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

No.2

研究課題名	研究者氏名	所　属　部　門	金額	補助元又は委託元
漢方方剤「抑肝散」によるアルツハイマー病BPSD軽減効果の検証-プラセボ対照無作為化臨床第2相比較試験-	荒木　信夫	神経内科	250 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
鍼灸の作用機序に関する科学的根拠の確立と神経内科専門医と連携した鍼灸活用ガイドラインの作成	荒木　信夫	神経内科	1,000 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	中里　良彦	神経内科	1,000 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
血栓の管腔内成長に対する細胞間相互作用とニューロキニン1受容体の役割の検討	東　俊晴	麻酔科	300 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	藤巻　高光	脳神経外科	1,000 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
経頭蓋磁気刺激による皮質拡延性抑制の誘導と非侵襲的な脳虚血耐性の獲得	小林　正人	脳神経外科	900 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
複合的成長因子と軟骨細胞移植療法による気管形成術の開発研究	古村　眞	小児外科	1,200 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
A型食堂閉鎖症に対するNOTESアプローチを用いた非開胸一期的根治術の開発	寺脇　幹	小児外科	1,500 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委

計　8

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

（様式第 11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

No.3

研究課題名	研究者氏名	所　属　部　門	金額	補助元又は委託元
組織特異的NFKB抑制による腎老化予防効果の検討	岡田 浩一	腎臓内科	700 千円	(補)文部科学省 科学研究費 委
慢性腎臓病を対象とした機能的MRI法の開発	井上 勉	腎臓内科	900 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
ﾐﾄｺﾝﾄﾞﾘｱ病の診断と治療に関する調査研究	大竹 明	小児科	2,000 千円	(補)厚生労働省 科学研究費 委
ﾐﾄｺﾝﾄﾞﾘｱ病に合併する高乳酸血症に対するﾋﾟﾙﾋﾞﾝ酸ﾅﾄﾘｳﾑ治療法の開発研究-試薬からの希少疾病治療薬開発の試み-	大竹 明	小児科	2,000 千円	(補)厚生労働省 科学研究費 委
次世代ｼｰｸｴﾝｻｰを駆使した希少遺伝性難病の原因解明と治療法開発の研究	大竹 明	小児科	5,000 千円	(補)厚生労働省 科学研究費 委
新しい新生児代謝ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ時代に適応した先天代謝異常症の診断基準作成と治療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究	大竹 明	小児科	1,200 千円	(補)厚生労働省 科学研究費 委
重症・難治性急性脳症の病因解明と診療確立に向けた研究	山内 秀雄	小児科	500 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
臨床的に寛解状態にあるも末梢気道閉塞が残存する思春期喘息児に対する治療・管理戦略	徳山 研一	小児科	500 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委

計　8

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

（様式第 11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

No.4

研究課題名	研究者氏名	所　属　部　門	金額	補助元又は委託元
自己免疫疾患に関する調査研究	三村　俊英	ﾘｳﾏﾁ膠原病科	1,500 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
関節ﾘｳﾏﾁ滑膜線維芽細胞におけるﾋｽﾄﾝ修飾とDNAﾒﾁﾙ化の解析	三村　俊英	ﾘｳﾏﾁ膠原病科	500 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
ﾍﾙﾊﾟｰT細胞分化と機能発現において転写因子特にc-Mafが果たす役割の解析	佐藤　浩二郎	ﾘｳﾏﾁ膠原病科	1,100 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
CD8陽性T細胞におけるﾋｽﾄﾝ修飾による機能及び分化制御の解明	荒木　靖人	ﾘｳﾏﾁ膠原病科	1,300 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
特発性肺線維症急性増悪及び薬剤性肺障害に関与する日本人特異的遺伝素因に関する研究	萩原　弘一	呼吸器内科	27,000 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
災害時及び災害に備えた慢性閉塞性肺疾患等の生活習慣病患者の災害脆弱性に関する研究	萩原　弘一	呼吸器内科	140 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
ﾊﾞｲｵﾏｰｶｰに基づいた肺癌個別化治療における分子標的治療薬の至適治療法を検証するﾗﾝﾀﾞﾑ化第Ⅲ相比較試験	萩原　弘一	呼吸器内科	2,000 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
肺血管異常におけるTGF-β関連遺伝子変化の包括的検索とその役割の検討	萩原　弘一	呼吸器内科	1,300 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委

計　8

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

（様式第 11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

No.5

研究課題名	研究者氏名	所　属　部　門	金額	補助元又は委託元
チロシンキナーゼ阻害剤による有効ながん治療の実用化に関する研究（EGFR遺伝子変異陽性肺がんの遺伝学的発がん機構の解明における検体収集、遺伝学的情報解析）	萩原　弘一	呼吸器内科	1,500 千円	(補)次世代がん委
ホモ接合ハロタイプ法とその応用による少数例からの遺伝子解析	萩原　弘一	呼吸器内科	5,000 千円	(補) 喫煙科学財団委
PAR-2制御によるIPF急性増悪新規治療法の探究	鈴木　朋子	呼吸器内科	1,300 千円	(補) 文部科学省科学研究費委
ﾋﾄ細胞標準化Real-time PCR法での肺炎起炎菌診断と網羅的病態解析	平間　崇	呼吸器内科	1,400 千円	(補) 文部科学省科学研究費委
血管形成異常における全ｴｸｿﾝﾘｼｰｸｴﾝｼﾝｸﾞによる疾患責任遺伝子の同定	田中　知明	呼吸器内科	500 千円	(補) 文部科学省科学研究費委
肺胞のﾊﾞﾘｱ機能に着目した急性呼吸不全の病態解明と治療への試み	太田　洋充	呼吸器内科	1,600 千円	(補) 文部科学省科学研究費委
鍼灸の作用機序に関する科学的根拠の確立と神経内科専門医と連携した鍼灸活用ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの作成	山口　智	東洋医学科	1,000 千円	(補) 厚生労働省科学研究費委

計　7

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

（様式第 11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

No.6

研究課題名	研究者氏名	所　属　部　門	金額	補助元又は委託元
絨毛外絨毛細胞によるらせん動脈リモデリングにおけるmiR-210の機能の検討	板倉　敦夫	産科・婦人科	1,900 千円	(補)文部科学省 科学研究費 委
着床不全に対する新規治療法の開発とその臨床応用	梶原　健	産科・婦人科	1,400 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
癌細胞傷害活性と免疫賦活効果を示すNKT細胞を応用した新規・卵巣癌免疫療法の開発	鈴木　元晴	産科・婦人科	1,500 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
多関節障害重症RA患者に対する総合的関節機能再建治療法の検討と治療ガイドライン確立	織田　弘美	整形外科	500 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
尿マーカーを用いた骨粗鬆症検診の有用性の検証と骨折予防効果に関する研究	田中　伸哉	整形外科	800 千円	(補)厚生労働省 科学研究費 委
糖尿病性・虚血性潰瘍における治癒能力診断デバイスの開発	市岡　滋	形成外科	1,100 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
スフィンゴシンー1リン酸を用いた骨培養効率化	佐藤　智也	形成外科	800 千円	(補)文部科学省 科学研究費 委
脳梗塞発症後に発見された耐糖能異常の臨床的意義に関する検討	間嶋　満	リハビリテーション科	400 千円	(補)文部科学省 科学研究費 委

計　8

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

（様式第 11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

No.7

研究課題名	研究者氏名	所　属　部　門	金額	補助元又は委託元
ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸ症候群と脳梗塞における運動療法の抗血栓作用と動脈硬化抑制効果の解析	倉林 均	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	1,000 千円	(補)文部科学省 科学研究費 委
Usher症候群に関する調査研究	池園 哲郎	耳鼻咽喉科	400 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
遺伝性難聴および外耳、中耳、内耳奇形に関する調査研究	池園 哲郎	耳鼻咽喉科	6,000 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
前庭機能異常に関する調査研究	池園 哲郎	耳鼻咽喉科	1,050 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
ﾌｫﾝ･ﾋｯﾍﾟﾙ･ﾘﾝﾄﾞｳ病の診療指針に基づく診断治療体制確立の研究	米谷 新	眼科	200 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
加齢黄斑変性に対する個別化医療実現のための前向き臨床研究にもとづくｹﾞﾉﾑﾜｲﾄﾞ関連解析	米谷 新	眼科	1,000 千円	(補) 厚生労働省 科学研究費 委
加齢黄斑変性の発症予測にむけた個別化医療の確立	森 圭介	眼科	1,100 千円	(補)文部科学省 科学研究費 委
神経皮膚症候群に関する調査研究	倉持 朗	皮膚科	850 千円	(補)厚生労働省 科学研究費 委

計　8

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

（様式第 11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

No.8

研究課題名	研究者氏名	所　属　部　門	金額	補助元又は委託元
ﾍﾞｰﾁｪｯﾄ病に関する調査研究	中村　晃一郎	皮膚科	1,000 千円	(補)厚生労働省 科学研究費 委
ｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎の発症・症状の制御および治療法の確立普及に関する研究	中村　晃一郎	皮膚科	900 千円	(補)厚生労働省 科学研究費 委
咀嚼筋腱・腱膜過形成症におけるﾌﾟﾛﾃｵﾐｸｽと元素分析	依田　哲也	歯科・口腔外科	1,200 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
慢性再発性ｱﾌﾀの遺伝要因を決定するHLAｱﾘﾙの連鎖解析	坂田　康彰	歯科・口腔外科	1,300 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
ﾒﾗﾉｺﾙﾁﾝ受容体作動薬の骨代謝における作用の解析と顎骨壊死に対する臨床応用	佐藤　毅	歯科・口腔外科	400 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
摂食障害とｽﾄﾚｽ	千田　大	歯科・口腔外科	2,600 千円	(補)文部科学省 科学研究費 委
慢性ｽﾄﾚｽによる生殖機能抑制	千田　大	歯科・口腔外科	1,100 千円	(補)文部科学省 科学研究費 委
内因性danger signalによる好酸球の活性化のﾒｶﾆｽﾞﾑの解明	小林　威仁	総合診療内科	1,800 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委

計　8

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

（様式第 11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

No.9

研究課題名	研究者氏名	所　属　部　門	金額	補助元又は委託元
脳腫瘍の診断と治療に有効なミクログリア／マクロファージのサブタイプの同定	佐々木 惇	病理学	800 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委
悪性神経膠腫における腫瘍前駆細胞とそのニッチの同定	佐々木 惇	病理学	150 千円	(補) 文部科学省 科学研究費 委

計　2
合計 64

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

2　論文発表等の実績

No. 1

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Molecular Cytogenetics 5:20-24, 2012	A novel five-way translocation t(7;11;9;22;9)(q22;q13;q34;q11.2;q34) involving Ph chromosome in a patient of chronic myeloid leukemia: a case report.	中村　裕一	血液内科
International Journal of Cancer 130;2464-2473, 2012	Inecalcitol, an analog of 1alpha, 25(OH)2D3, induces growth arrest of androgen-dependent prostate cancer cells.	脇本　直樹	血液内科
Liver Transplant. 18;1069-1077, 2012	Outcomes after living donor liver transplantation for acute liver failure in Japan: results of a nationwide survey.	持田　智	消化器内科・肝臓内科
PLoS One. 7;e39175, 2012	Genome-wide association study confirming association of HLA-DP with protection against chronic hepatitis B and viral clearance in Japanese and Korean.	持田　智	消化器内科・肝臓内科
BMC Med Genet 13;47, 2012	No association for Chinese HBV-related hepatocellular carcinoma susceptibility SNP in other East Asian populations.	持田　智	消化器内科・肝臓内科
Dig Dis. 30;554-560, 2012	Retreatment with peginterferon α-2a + ribavir in in patients who failed previous peginterferon α-2b + ribavirin combination therapy.	持田　智	消化器内科・肝臓内科
Mod Rheumatol. , 2012 Epub ahead of print	A proposal for management of rheumatic disease patients with hepatitis B virus infection receiving immunosuppressive therapy.	持田　智	消化器内科・肝臓内科
Hepatol Res. 43;97-105, 2013	Etiology and prognosis of fulminant hepatitis and late-onset hepatic failure in Japan: Summary of the annual nationwide survey between 2004 and 2009.	持田　智	消化器内科・肝臓内科
J Gastroenterol Hepatol. , 2013 Epub ahead of print	Balloon-Occluded Retrograde Transvenous Obliteration Using a Microballoon Catheter for Intractable Gastric Fundal Varices.	今井　幸紀	消化器内科・肝臓内科
World J Gastroenterol 2013, in press	Long-term efficacy of endoscopic coagulation for different types of gastric vascular ectasia.	今井　幸紀	消化器内科・肝臓内科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No: 2

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol 47;664-677, 2012	Algorithm to determine the outcome of patients with acute liver failure: a data-mining analysis using decision trees.	中山　伸朗	消化器内科・肝臓内科
J Gastroenterol. 47;849-861, 2012	Acute liver failure in Japan: definition, classification, and prediction of the outcome.	菅原　通子	消化器内科・肝臓内科
Hepatol Int 2013, in press	SNPs in the promoter region of the osteopontin gene as a possible host factor for sex difference in hepatocellular carcinoma development in patients with HCV	濱岡　和宏	消化器内科・肝臓内科
Hepatol Res. 2013, in press	Transcatheter Arterial Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma: Comparison of the Therapeutic Efficacies Between Miriplatin and Epirubicin.	繁田　貴博	消化器内科・肝臓内科
J Hypertens 30;811-818, 2012	Prevention of microalbuminuria in patients with type 2 diabetes and hypertension	片山　茂裕	内分泌内科・糖尿病内科
Prog Med 32;1081-1085, 2012	糖尿病合併高血圧患者におけるARBと利尿薬配合剤の尿酸代謝に及ぼす影響の検討	片山　茂裕	内分泌内科・糖尿病内科
血圧 19;490-496, 2012	バルサルタン160mgの朝1回投与と80mg朝・夕2回分割投与の降圧効果の比較検討：家庭血圧測定を用いたValmaxs（ Vaisartan Max dose Study in Saitama)	野口　雄一	内分泌内科・糖尿病内科
Therapeutic Research 33;1389-1396, 2012	1型糖尿病における基礎インスリンとしてのグラルギンとデテミルの比較	栗原　進	内分泌内科・糖尿病内科
Mol Cell Endocrinol. 365;25-35, 2013	Activation of Akt through 5-HT2A receptor ameliorates serotonin-induced degradation of insulin receptor substrate-1 in adipocytes.	保坂　利男	内分泌内科・糖尿病内科
Japanese Journal of Radiology 30;274-276, 2012	Cushing syndrome treated by radiofrequency ablation of adrenal gland adenoma.	皆川　晃伸	内分泌内科・糖尿病内科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Case Rep Radiol , 2012　Epub	"Heart appearance" infarction of the pons: a case report.	荒木　信夫	神経内科・ 脳卒中内科
Mov Disord. 28;384-7, 2012	A case of α-synuclein gene duplication presenting with head-shaking movements.	荒木　信夫	神経内科・ 脳卒中内科
Neuropathol Appl Neurobiol , 2013　Epub	A clinicopathological and genetic study of sporadic diffuse leukoencephalopathy with spheroids: A report of two cases.	荒木　信夫	神経内科・ 脳卒中内科
Brain Res. 1481;97-106, 2012	Cerebral antioxidant enzyme increase associated with learning deficit in type 2 diabetes rats.	荒木　信夫	神経内科・ 脳卒中内科
Nephron Exp Nephrol. 122;83-94, 2013	Renoprotective Effect of Pioglitazone by the Prevention of Glomerular Hyperfiltration through the Possible Restoration of Altered Macula Densa Signaling in Rats with Type 2 Diabetic Nephropathy.	荒木　信夫	神経内科・ 脳卒中内科
神経内科 78;336-339, 2013	プロラクチン産生下垂体腺腫による一過性てんかん性健忘の１例	荒木　信夫	神経内科・ 脳卒中内科
発汗学 19;73-75, 2012	症候性harlequin症候群34例の検討	荒木　信夫	神経内科・ 脳卒中内科
日本東洋心身医学研究 27;38-40, 2012	補中益気湯と五苓散が有効だった東日本大震災後に起立性頭痛を呈した片頭痛の４例	荒木　信夫	神経内科・ 脳卒中内科
Acta Med Okayama. 66;163-170, 2012	Long-term effects of cabergoline and levodopa in Japanese patients with early Parkinson's disease: a 5-year prospective study.	山元　敏正	神経内科・ 脳卒中内科
発汗学 19;34-35, 2012	レビー小体型認知症に伴った寒冷誘発性多汗症	二宮　充喜子	神経内科・ 脳卒中内科

計　10

(注)　1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績　　No. 4

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Med. Entomol. Zool 64;27-32, 2013	Human dermititis caused by the natural infestation of larval trombiculid mites Leptotrombidium akamushi (Brumpt, 1910) (Acari, Trombiculidae) at the hot spot of Tsutsugamushi disease in Akita Prefecture, Japan	松本　延幸	麻酔科
Skeletal Raiol 41;1087-1092, 2012	Correlation between apparent diffusion coefficient and viscoelasticity of articular cartilage in a porcine model	新津　守	放射線科
Magn ResonMed Sci 12;95-103, 2013	Intensity correction method customized for multi-animal abdominal MR imaging with 3T clinical scanner and multi-array coil.	新津　守	放射線科
Z. Med. Phys. Epub 2012	Cadaveric and in vivo human joint imaging based on differential phase contrast by X-ray Talbot-Lau interferometry.	田中　淳司	放射線科
日本外科系連合学会誌 37;906-911, 2012	下部消化管穿孔に合併した播種性血管内凝固症候群に対する遺伝子組み換え型トロンボモジュリン製剤の使用経験	多賀　誠	消化器一般外科
外科 74;1209-1212, 2012	開腹歴のないイレウス手術の検討	多賀　誠	消化器一般外科
外科 74;862-864, 2012	腹壁瘢痕ヘルニア術後の漿液腫の検討	多賀　誠	消化器一般外科
her Adv Cardiovasc Dis. 6;141-147, 2012	Eplerenone, an aldosterone blocker, is more effective in reducing blood pressure in patients with, than without, metabolic syndrome.	鈴木　洋通	腎臓内科
Ther Adv Cardiovasc Dis. 6;237-244, 2012	Combination therapy with losartan/hydrochlorothiazide for blood pressure reduction and goal attainment in a real-world clinical setting in Japan.	鈴木　洋通	腎臓内科
Nephrology & Therapeutics. 2; 2-6, 2012	Canine model of cardiorenal failure.	鈴木　洋通	腎臓内科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No. 5

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Hypertens Res. 35;142-147, 2012	Chronic kidney disease in postmenopausal women.	鈴木　洋通	腎臓内科
Adv Perit Dial 28;68-73, 2012	Early start of combination therapy with hemodialysis and peritoneal dialysis prolongs survival and reduces cardiovascular events in male patients.	鈴木　洋通	腎臓内科
Adv Perit Dial. 28; 106-111, 2012	New modality of dialysis therapy: peritoneal dialysis first and transition to home hemodialysis.	鈴木　洋通	腎臓内科
Contrib Nephrol. 177;71-83, 2012	Combination therapy with hemodialysis and peritoneal dialysis.	鈴木　洋通	腎臓内科
Am J Nephrol 35;416-423, 2012	Long-term effects of calcium antagonists on augmentation index in hypertensive patients with chronic kidney disease: a randomized controlled study.	大野　洋一	腎臓内科
Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol 303;R495-504, 2012	Elucidating mechanisms underlying altered renal autoregulation in diabetes.	井上　勉	腎臓内科
Pflugers Arch. 465;935-43, 2013	Fibroblast growth factor 23 enhances renal klotho abundance.	井上　勉	腎臓内科
Clin Exp Nephrol. 16;903-20, 2012	Renal disease in the elderly and the very elderly Japanese: analysis of the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR).	井上　勉	腎臓内科
Kidney Int. 82;980-989, 2012	Targeted expression of a pan-caspase inhibitor in tubular epithelium attenuates interstitial inflammation and fibrogenesis in nephritic but not nephrotic mice.	井上　勉	腎臓内科
Clin Exp Hypertens. 35;244-249, 2013	Aliskiren reduces morning blood pressure in hypertensive patients with diabetic nephropathy on hemodialysis.	菊田　知宏	腎臓内科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Contrib Nephrol. 177;71-83, 2012	Combination therapy with hemodialysis and peritoneal dialysis.	菊田　知宏	腎臓内科
Contrib Nephrol. 177;169-177, 2012	Daily hemodialysis improves uremia-associated clinical parameters in the short term.	渡邊　裕輔	腎臓内科
Adv Perit Dial. 28;50-54, 2012	Aging is an important risk factor for peritoneal dialysis-associated peritonitis.	岡山　美香	腎臓内科
J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci 900;24-31, 2012	Detection of D(4)-3-oxo-steroid 5B-reductase deficiency by LC-ESI-MS/MS measurement of urinary bile acids.	大竹　明	小児科
Mol Genet Metab 106;474-477, 2012	Metabolic autopsy with postmortem cultured fibroblasts in sudden unexpected death in infancy: Diagnosis of mitochondrial respiratory chain disorders.	大竹　明	小児科
Clin Chim Acta. 416 ; 54-59, 2013	Oxysterol changes along with cholesterol and vitamin D changes in adult phenylketonuric patients diagnosed by newborn mass-screening.	大竹　明	小児科
J Inher Metab Dis 36 ; 565-573, 2013	Two neonatal cholestasis patients with mutations in the SRD5B1 (AKR1D1) gene: diagnosis and bile acid profiles during chenodeoxycholic acid treatment.	大竹　明	小児科
Eur J Endocrinol. 166;235-240, 2012	Analysis of plasma ghrelin in patients with medium-chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency and glutaric aciduria type II.	大竹　明	小児科
Brain Dev. 34 ; 861-865, 2012	Two Japanese patients with Leigh syndrome caused by novel SURF1 mutations.	大竹　明	小児科

計　9

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Brain Dev 34;337-43, 2012	Epidemiology of acute encephalopathy in Japan, with emphasis on the association of viruses and syndromes.	山内　秀雄	小児科
日本マス・スクリーニング学会誌 22;45-48, 2012	門脈欠損症 II 型（門脈低形成症）に対してシャント血管離断術が奏功した VACTERL 連合の 1 例	荒尾　正人	小児科
Can Assoc Radiol J. 64;200-207, 2013	Acute- or subacute-onset lung complications in treating patients with rheumatoid arthritis.	三村　俊英	リウマチ膠原病科
Mod Rheumatol. , 2012 Epub ahead of print	Clinical characteristics and risk factors for Pneumocystis jirovecii pneumonia in patients with rheumatoid arthritis receiving adalimumab: a retrospective review and case-control study of 17 patients.	三村　俊英	リウマチ膠原病科
Mod Rheumatol. , 2012 Epub ahead of print	A proposal for management of rheumatic disease patients with hepatitis B virus infection receiving immunosuppressive therapy.	三村　俊英	リウマチ膠原病科
Mod Rheumatol 23 ; 269-275, 2013	Serum Osteoprotegerin Concentration is Associated with Carotid Atherosclerotic Plaque in Patients with Rheumatoid Arthritis.	舟久保　ゆう	リウマチ膠原病科
Nature Communications 3 , 2012	Epidermal phospholipase Cdelta1 regulates granulocyte counts and systemic interleukin-17 levels in mice	佐藤　浩二郎	リウマチ膠原病科
Arthritis & Rheumatism 64;1329-37, 2012	The pattern-recognition receptor nucleotide-binding oligomerization domain—containing protein 1 promotes production of inflammatory mediators in rheumatoid arthritis synovial fibroblasts.	横田　和浩	リウマチ膠原病科
Mod Rheumatol Epub ahead of print , 2013	Pentraxin 3 is associated with disease activity but not atherosclerosis in patients with systemic lupus erythematosus.	島田　祐樹	リウマチ膠原病科

計　9

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Annals of the Rheumatic Diseases 71;817-824, 2012	Golimumab monotherapy in Japanese patients with active rheumatoid arthritis despite prior treatment with disease-modifying anti-rheumatic drugs: results of the Phase 2/3, multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled GO-MONO study through 24 weeks.	金澤　實	呼吸器内科
Intern Arch Aller Immunol 161;107-117, 2013	Omalizumab attenuates airway inflammation and Interleukin-5 production by mononuclear cells in patients with severe allergic asthma.	金澤　實	呼吸器内科
Clin Cancer Res 18;5682-5689, 2012	A prospective PCR-based screening for the EML4-ALK oncogene in non-small cell lung cancer	萩原　弘一	呼吸器内科
Ann Oncol 23;2914-2919, 2012	An evaluation study of EGFR mutation tests utilized for non-small-cell lung cancer in the diagnostic setting	萩原　弘一	呼吸器内科
COPD 9;406-416, 2012	Association Between Genetic Variations In Surfactant Protein D and Emphysema, Interstitial Pneumonia, and Lung Cancer in a Japanese Population	萩原　弘一	呼吸器内科
Oncologist. 82;341-346, 2012	Quality of life with gefitinib in patients with EGFR-mutated non-small cell lung cancer: quality of life analysis of North East Japan Study Group 002 Trial.	萩原　弘一	呼吸器内科
Oncology. 82;341-346, 2012	The peptide nucleic acid-locked nucleic acid polymerase chain reaction clamp-based test for epidermal growth factor receptor mutations in bronchoscopic cytological specimens of non-small cell lung cancer.	萩原　弘一	呼吸器内科
アレルギー・免疫 19;578-587, 2012	呼気一酸化窒素を指標とした気管支喘息管理：多施設研究による有用性と限界の検討	永田　真	呼吸器内科
呼吸 31;482, 2012	抗 IgE 抗体療法の炎症バイオマーカーに及ぼす作用	永田　真	呼吸器内科
アレルギー 61;194-203, 2012	重症気管支喘息患者への教育・指導が気道炎症にもたらす効果の検討	永田　真	呼吸器内科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No. 9

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
J Stroke Cerebrovasc Dis. 21;594-599, 2012	Clinical review of 37 patients with medullary infarction	山崎　進	呼吸器内科
British Journal of Cancer 107;1474-1480, 2012	Phase I/II trial of a biweekly combination of S-1 plus docetaxel in patients with previously treated non-small cell lung cancer (KRSG-0601)	小宮山　謙一郎	呼吸器内科
神経治療学 29;753-760, 2012	緊張型頭痛を有する visual display terminal 作業者に対する鍼治療効果	山口　智	東洋医学
東洋療法学校協会学会誌 36;35-38, 2013	本校卒業生における鍼灸施術の実態調査	山口　智	東洋医学
Fertil Steril S0015-0282;2246-2247, 2012	Implications of assisted reproductive technologies on term singleton birth weight: an analysis of 25,777 children in the national assisted reproduction registry of Japan	石原　理	産婦人科
埼玉産科婦人科学会雑誌 42;16-20, 2012	リトドリン塩酸塩の点滴投与中に発生した有害事象に関する検討：後発医薬品を先発医薬品に変更した 11 症例の解析	石原　理	産婦人科
埼玉産科婦人科学会雑誌 42;124-30, 2012	埼玉県内の GDM スクリーニング検査の現状	石原　理	産婦人科
埼玉産科婦人科学会雑誌 42 ; 137-140, 2012	当院における SILSTM ポートを用いた単孔式腹腔鏡手術の経験	梶原　健	産婦人科
関東連合産科婦人科学会誌 49;527-533, 2012	入院管理を要した卵巣出血 62 症例の後方視的検討：PT 活性低下症例では手術介入が必要となる可能性が高い	梶原　健	産婦人科
日本女性骨盤底医学会誌 9;140-141, 2012	過去 5 年間の TVM 手術症例の再発率と子宮腔長についての考察	木村　真智子	産婦人科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No. 10

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
関東連合産科婦人科学会誌 49;521-525, 2012	当院における双胎妊娠の形態異常児に関する検討	田丸　俊輔	産婦人科
関東連合産科婦人科学会誌 49;495-502, 2012	器械的拡張併用による分娩誘発の成績―分娩誘発177症例の後方視的検討	鈴木　裕之	産婦人科
臨床精神医学 41;425-432, 2012	総合病院精神科のスーパー救急の現場から　―大学病院型「スーパー救急」その実践的運営モデルと実情について―	松岡　孝裕	神経精神科・心療内科
Hip Joint 38;922-924, 2012	RAO と THA における術後7日目の D-dimer 値の比較検討	織田　弘美	整形外科・脊椎外科
Hip Joint 38;390-393, 2012	寛骨臼回転骨切り術後の症例に対する人工股関節全置換術の検討	織田　弘美	整形外科・脊椎外科
Hip Joint 38;364-367, 2012	人工股関節全置換術に対する簡便な脚長差の補正方法	織田　弘美	整形外科・脊椎外科
Hip Joint 38;1108-1111, 2012	術前後に選択的動脈造影を施行した大腿骨頭外科的脱臼併用大腿骨頭回転骨切り術の2例	金　潤澤	整形外科・脊椎外科
J Bone Miner Metab 30;468-473, 2012	A study of change in bone metabolism in cases of gender identity disorder.	宮島　剛	整形外科・脊椎外科
SERM 10;52-53, 2012	Phase Contrast Radiography による骨強度評価法の検討	宮島　剛	整形外科・脊椎外科
整形・災害外科 55;975-980, 2012	有限要素解析による股関節骨切り術前後の生体力学的評価	宮島　剛	整形外科・脊椎外科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No. 11

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
骨折 34;836-839, 2012	仙骨脱臼骨折（U-shaped sacral fracture）に対する治療経験	鳥尾　哲矢	整形外科 ・脊椎外科
骨折 34;942-946, 2012	開放骨折におけるV. A. C. ATS治療システムの使用経験	鳥尾　哲矢	整形外科 ・脊椎外科
骨折 34;665-669, 2012	距骨骨折の治療経験	鳥尾　哲矢	整形外科 ・脊椎外科
治療 94;2046-2051, 2012	骨折および身長低下と生命予後の関連	田中　伸哉	整形外科 ・脊椎外科
Osteoporosis Japan 21;186-191, 2013	骨粗鬆症骨折発生時の適切な抗骨粗鬆症薬についての検討（中間報告）	田中　伸哉	整形外科 ・脊椎外科
Arch Orthop Trauma Surg 132;607-611, 2012	Predictive factors of cervical spondylotic myelopathy in patients with lumbar spinal stenosis.	田中　伸哉	整形外科 ・脊椎外科
Hip Joint 38;889-892, 2012	CT 矢状断像における acetabular retroversion の評価	田中　伸哉	整形外科 ・脊椎外科
Hip Joint 38;1073-1076, 2012	JOA hip score、Merle d' Aubigne hip score、および Harris hip score の比較	田中　伸哉	整形外科 ・脊椎外科
J Cell Physiol 228 ; 163-71, 2013	Nanog promotes osteogenic differentiation of the mouse mesenchymal cell line C3H10T1/2 by modulating bone morphogenetic protein (BMP) signaling.	中塚　貴志	形成外科 ・美容外科
Dermatology 225;210-4, 2012	Influence of mechanical forces as a part of nail configuration.	市岡　滋	形成外科 ・美容外科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
PLoS One 7;e50212, 2012	Influence of oxygen on wound healing dynamics: assessment in a novel wound mouse model under a variable oxygen environment.	市岡　滋	形成外科 ・美容外科
Int Wound J 9;8-16, 2012	Optimal use of negative pressure wound therapy in treating pressure ulcers.	市岡　滋	形成外科 ・美容外科
Ann Plast Surg 69;521-5, 2012	The estimation of tissue loss during tangential hydrosurgical debridement.	市岡　滋	形成外科 ・美容外科
日本褥瘡学会誌 14;605-9, 2012	仙骨部褥瘡に対する局所酸素療法の経験	市岡　滋	形成外科 ・美容外科
日本形成外科学会誌 32;30-34, 2012	難治性糖尿病足潰瘍に対する局所酸素療法の経験	市岡　滋	形成外科 ・美容外科
Ostomy Wound Manage. 58;70-75, 2012	Pressure ulcer occurrence following the great East Japan Earthquake: observations from a disaster medical assistance team.	佐藤　智也	形成外科 ・美容外科
Advances in SKIN & WOUND CARE 26;224-229, 2013	The effect of hydrocolloid dressing containing ceramide-2 on split-thickness wounds in a laser-induced erosion model	土屋　沙緒	形成外科 ・美容外科
J PlastSurg Hand Surg Epub ahead ofprint , 2013	Rhinophyma-like hypertrophy of the nose caused by chronic facial pyoderma in a patient with Crohn's disease.	土屋　沙緒	形成外科 ・美容外科
J PlastSurg Hand Surg Epub ahead ofprint , 2013	Efficacy of a poly Glycolic acid (PGA) /Collagen Composite Nanofiber Scaffold on Cell Migration and Neovascularization in vivo Skin Defect Model	土屋　沙緒	形成外科 ・美容外科
JOHNS 28, 2012	Adolf Onodi	加瀬　康弘	耳鼻咽喉科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No. 13

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 84;233-237, 2012	先天性嚢胞	加瀬　康弘	耳鼻咽喉科
JOHNS 28;647-650, 2012	扁桃周囲膿瘍，頸部膿瘍，急性喉頭蓋炎	加瀬　康弘	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol 132;1134-1139, 2012	Cochlin expression in the rat perilymph during postnatal development.	池園　哲郎	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx 40;422-424, 2012	Cochlin-tomoprotein(CTP) detection test identified perilymph leakage preoperatively in revision stapes surgery.	池園　哲郎	耳鼻咽喉科
Otology Japan 22;274-279, 2012	Perilymphatic oozer が疑われた CTP 陽性の耳性髄液漏症例	池園　哲郎	耳鼻咽喉科
The Laryngoscope , 2013　Epub	Five adult laryngeal venous malformation cases treated effectively with sclerotherapy	上條　篤	耳鼻咽喉科
日本鼻科学会誌 51;27-35, 2012	アレルギー性鼻炎に対する免疫療法の指針	上條　篤	耳鼻咽喉科
アレルギー 62;47-53, 2013	下鼻甲介手術を併施した後鼻神経切断術の有効性の検討	上條　篤	耳鼻咽喉科
JOHNS 28;733-736, 2012	疾患と病態生理　外リンパ瘻	新藤　晋	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科臨床 106;267-272, 2013	関節リウマチ患者に発症した深頸部膿瘍 2 例	中島　正己	耳鼻咽喉科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No. 14

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Journal of Saitama Medical University 39;121-129, 2013	3D analysis of binocular eye movement during head tilt	杉崎　一樹	耳鼻咽喉科
耳鼻と臨床 58;143-148, 2012	メニエール病難治例に対するステロイドホルモン剤の選択について	柴崎　修	神経耳科
Graefe's archive for clinical and experimental ophthalmology 250;1843-1849, 2012	Impact of high myopia on the performance of SD-OCT parameters to detect glaucoma.	庄司　拓平	眼科
Ophthalmology. 119;2600-2608, 2012	Montage images of spectral-domain optical coherence tomography in eyes with idiopathic macular holes.	森　圭介	眼科
Applied physics letters 101;19110/1-3, 2012	Efficient spectral broadening of supercontinuum in photonic crystal fiber with self-phase modulation induced by femtosecond laser pulse.	鈴木　将之	眼科
Visual Dermatology 12;275-277, 2013	下肢の切断で救命しえた壊死性筋膜炎	倉持　朗	皮膚科
日本皮膚病理組織学会会誌 28;61-64, 2013	左膝前面の皮膚結節	倉持　朗	皮膚科
日本レックリングハウゼン病学会雑誌 3;46-55, 2012	神経線維腫症１型の結節状蔓状神経線維腫に於ける問題点	倉持　朗	皮膚科
Visual Dermatology 12;292-294, 2013	透析治療を要したToxic Shock症候群	倉持　朗	皮膚科
Skin Cancer 27;264-265, 2013	皮膚がんにおける頸部リンパ節郭清術	倉持　朗	皮膚科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No. 15

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
日本レックリングハウゼン病学会雑誌 3;29-32, 2012	本邦に於けるNerofibromatosis type1 (NF1) 診療ネットワークの構築	倉持　朗	皮膚科
Skin Cancer 27;67 - 71, 2012	脊髄損傷患者の遷延する褥瘡・瘻孔部位より生じた有棘細胞癌の１例	中村　晃一郎	皮膚科
皮膚病診療 34;571-574, 2012	足底表皮嚢腫から生じた有棘細胞癌	中村　晃一郎	皮膚科
Annals of Dermatology 24;144 - 150, 2012	A randamozied, open-label, multicenter trial of topical tacrolimus for the treatment of pruritis in patients with atopic dermatitis	中村　晃一郎	皮膚科
International Journal of Dermatology 21;1003-1004, 2012	Cetiridine hydrochloride suppresses the CCL17 production of epidermal keratinocytes and dermal fibroblasts	中村　晃一郎	皮膚科
Medical Microbiology and Diagnosis ISSN:161-0703, 2012	Role of heat shock protein derived from streptococcus sangunis in Behcet's disease	中村　晃一郎	皮膚科
Am J Surg. 204;487-493, 2012	Axillary ultrasound examination is useful for selecting patients optimally suited for sentinel lymph node biopsy after primary systemic chemotherapy.	松浦　一生	乳腺腫瘍科
PLoS One. 7;e47407, 2012	Cytological and morphological analyses reveal distinct features of intestinal development during Xenopus tropicalis metamorphosis.	松浦　一生	乳腺腫瘍科
Endocrinology 153;5082-5089, 2012	Direct activation of Xenopus iodotyrosine deiodinase by thyroid hormone receptor in the remodeling intestine during amphibian metamorphosis.	松浦　一生	乳腺腫瘍科
Cell Biosci. 2;25, 2012	Histone H3K79 methyltransferase Dot1L is directly activated by thyroid hormone receptor during Xenopus metamorphosis.	松浦　一生	乳腺腫瘍科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No. 16

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
日本歯科心身医学会雑誌 26;64-68, 2012	口腔心身症におけるパロキセチン塩酸塩水和物の治療成績の検討ーVAS, SDS および CMI を評価指標としてー	福島　洋介	歯科・口腔外科
日本口腔内科学会雑誌 18;20-25, 2012	重度口内炎を呈した薬剤性過敏症症候群の１例	福島　洋介	歯科・口腔外科
Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 24;185-188, 2012	Proteomic analysis of a masticatory muscle tendon-aponeurosis hyperplasia: a preliminary study using 2D-DIGE system.	佐藤　毅	歯科・口腔外科
日本透析医学会雑誌 45;551-557, 2012	「Calciphylaxis の診断・治療に関する調査・研究」班：全国調査に基づくカルシフィラキシス診断基準の提案	中元　秀友	総合診療内科
臨床透析 28;1569-1578, 2012	【新たなエビデンスにつなげるために　管理栄養士からみた透析患者の食事療法のポイント】 外来通院症例から学ぶ　腹膜透析　透析導入期 (解説/特集)	中元　秀友	総合診療内科
臨床透析 28;1569-1578, 2012	【腹膜透析療法-ポストガイドラインの方向性】 課題と対策　離脱基準　NEXT-PD 研究	中元　秀友	総合診療内科
Nephrol. Dial. Transplant. 27;1580-1584, 2012	A case-control study of calciphylaxis in Japanese end-stage renal disease patients.	中元　秀友	総合診療内科
Am. J. Nephrol 36;175-183, 2012	Efficacy and Safety of a Novel kappa-Agonist for Managing Intractable Pruritus in Dialysis Patients.	中元　秀友	総合診療内科
Endcri J. 59;239-246, 2012	Hypoglycemic effects of colestimide on type 2 diabetic patients with obesity.	中元　秀友	総合診療内科
Ther. Apher. Dial. 16:111-120, 2012. 16;111-120, 2012	Late dialysis start did not affect long-term outcome in Japanese dialysis patients: long-term prognosis from Japanese Society of Dialysis Therapy Registry.	中元　秀友	総合診療内科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No. 17

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Ther. Apher. Dial. 16;11-53, 2012	Overview of Regular Dialysis Treatment in Japan (as of 31 December 2009)	中元　秀友	総合診療内科
Ther. Apher. Dial. 16;483-521, 2012	Overview of Regular Dialysis Treatment in Japan (as of 31 December 2010).	中元　秀友	総合診療内科
腎と透析　73巻別冊 腹膜透析2012 73;417-418, 2012	維持透析患者の肩こり、腰痛に対する芍薬甘草湯の有用性	中元　秀友	総合診療内科
腎と透析　73巻別冊 腹膜透析2012 73;133-134, 2012	PD患者の在宅管理と介護のポイント 在宅診療における腹膜透析患者の管理のポイントは?	中元　秀友	総合診療内科
Ther. Apher. Dial. 16;54-62, 2012	Ideal timing and predialysis nephrology care duration for dialysis initiation: from analysis of Japanese dialysis initiation survey.	中元　秀友	総合診療内科
透析会誌 44;1-47, 2012	わが国の慢性透析療法の現況(2010年12月31日現在)	中元　秀友	総合診療内科
腎と透析 73;414-420, 2012	医療連携を中心とした在宅高齢透析患者への取り組み　在宅診療における腹膜透析患者の管理のポイントは?	中元　秀友	総合診療内科
腎と透析　73巻別冊 腹膜透析2012 73;217-218, 2012	当院におけるCAPDカテーテル挿入症例160例の臨床的検討　中止理由ならびに死亡原因に関する検討	中元　秀友	総合診療内科
腎と透析　73巻別冊 腹膜透析2012 73;29-31, 2012	日本発PD療法のエビデンスを目指して Japan Fluid Studyからの報告	中元　秀友	総合診療内科
腎と透析　73巻別冊 腹膜透析2012 73;25-28, 2012	日本発PD療法のエビデンスを目指して 多施設・前向き観察試験による中性腹膜透析液の評価	中元　秀友	総合診療内科

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
腎と透析　73巻別冊 腹膜透析2012 73;19-21, 2012	日本発PD療法のエビデンスを目指して 腹膜透析ガイドラインとその後　PDレジストリ2010	中元　秀友	総合診療内科
Gastrointest Endosc 75;1253-7, 2012	Novel technique of endoscopic submucosal dissection using external forceps for early rectal cancer	今枝　博之	総合診療内科
PLoS One 7;e47396, 2012	Overexpression of miR-142-5p and miR-155 in gastric mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma resistant to Helicobacter pylori eradication	今枝　博之	総合診療内科
J Gastroenterol Hepatol 27;1617-1622, 2012	Comparison of patient acceptance of sodium phosphate versus polyethylene glycol plus sodium picosulfate for colon cleansing in Japanese	今枝　博之	総合診療内科
Gut Liver 6;339-343, 2012	Effects of the oral administration of mosapride citrate on the capsule endoscopy completion rate	今枝　博之	総合診療内科
Gut Liver 6;218-222, 2012	Role of enhanced visibility in evaluating polyposis syndromes using a newly developed Contrast Image Capsule Endoscope	今枝　博之	総合診療内科
日本高齢消化器病学会誌 14;29-34, 2012	当科におけるClostridium difficile関連下痢症の検討	今枝　博之	総合診療内科
Kidney Int 82;980-989, 2012	Targeted expression of a pan-caspase inhibitor in tubular epithelium attenuates interstitial inflammation and fibrogenesis in nephritic but not nephrotic mice.	岡田　浩一	総合診療内科
消化器内視鏡 24;1466, 2012	【内視鏡"もう一工夫"】 大腸　前処置の一工夫	大庫　秀樹	総合診療内科
Ningen dock 27 ; 6-12, 2013	Relation of calcium redistribution with atherosclerotic risk factors and cardiovascular remodeling	丸山　義明	健康管理センター

計　10

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

2　論文発表等の実績

No. 19

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Clin Neuropathol 31;146-151, 2012	Clear cells are associated with proliferative activity in ependymoma: a quantitative study.	佐々木　惇	病理学
J Neurooncol 107;147-53, 2012	O6-methylguanine-DNA methyltransferase promoter methylation in 45 primary central nervoussystem lymphomas: Quantitative assessment of methylation and response to temozolomide treatment.	佐々木　惇	病理学
Clin Neuropathol 31;67-76, 2012	Pathologic diversity of glioneuronal tumor with neuropil-like islands: a histological and immunohistochemical study with a special reference to isocitrate dehydrogenase 1 (IDH1) in 5 cases.	佐々木　惇	病理学
日本臨床細胞学会雑誌 54;241-247, 2012	ワルチン腫瘍の穿刺吸引細胞像の検討	佐々木　惇	病理学

計　4
合計　182

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2　「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3　雑誌名には、Vol 、頁、発表年を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長　　片 山 茂 裕			
管理担当者氏名	医務部長	齋藤　喜博	総務部長	茂木　明
	薬剤部長	北澤　貴樹	医療安全対策室長	金澤　實
	利用者相談室長	齋藤　喜博		

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		診療情報管理室 医務部庶務課	入院・外来診療録とも電子カルテで管理している。 Ｘ－Ｐフィルムは、フィルム保管庫及びＣＲ化にて一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課	
	高度の医療の提供の実績	医務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医務部	
	高度の医療の研修の実績	医務部	
	閲覧実績	医務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務部	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務部 薬剤部	

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室	
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策室 利用者相談室	

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項に掲げる体制の確保の状況	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ＭＥサービス部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ＭＥサービス部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ＭＥサービス部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ＭＥサービス部	

(注)　「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医務部長　　齋藤　喜博
閲覧担当者氏名	医務部長　　齋藤　喜博 総務部長　　茂木　明 薬剤部長　　北澤　貴樹
閲覧の求めに応じる場所	医務部、総務部、薬剤部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　2　件
閲覧者別	医師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　1　件
	地方公共団体	延　1　件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	55.7　%	算定期間	平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日

算出根拠	A：紹介患者の数	16,902　人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,928　人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,924　人
	D：初診の患者の数	44,071　人

(注)　1　「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
　　2　A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

（様式第13-2）

規則第１条の１１第１項各号及び第９条の２３第１項第１号に掲げる体制の確保の状況

①医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊒・無

指針の主な内容：

１．医療安全管理指針：平成14年11月19日制定

大学病院の医療安全対策に関する基本姿勢ならびに方針を明確にし、職員に周知を図ることにより安全文化の構築を期待するものである。本指針は患者からの相談への対応に関する指針および、事故等発生時の公表指針も含まれ、また患者・家族の開示請求にも応じる。

２．診療基本マニュアル（平成10年初版）（完全版:平成23年4月1日刷、ポケット版:平成23年9月1日刷）

大学病院における診療の基本姿勢を中心に掲載したマニュアルで、A4サイズの完全版のほか、マニュアルの要点をまとめたポケット版がある。A4完全版は、院内各部署に常備されている「埼玉医科大学病院マニュアル集」に収録し、ポケット版は全教職員に貸与し常時携行を要請している。内容は(1)診療の基本、(2)正しい保険診療、(3)医療安全の基本、(4)医療安全対策総論、(5)医療安全対策各論、(6)問題発生時等への対応の六章から構成されている。掲載内容は診療基本マニュアル編集会議において検討し、必要事項は随時追補している。

３．埼玉医科大学病院マニュアル集

全職員が周知しておくべき診療サービス等に係る基準，手順等を収録している。大学病院マニュアル集は、定期的に加除整理をおこなっており、直近の追録加除整理は平成23年9月1日である。マニュアル集の収録内容は、医療安全管理指針、診療基本マニュアル完全版、医薬品業務手順書第4版、消毒薬使用指針、褥瘡対策マニュアル、感染性廃棄物取扱手順書、医療ガス保守点検指針、指定施設等不在者投票処理要領、輸血マニュアルである。

４．その他のマニュアル

各マニュアルは、所掌する院内委員会等において診療基本マニュアルとの内容の整合性を検証した上で編集され、関係部署へ常備されている。主なマニュアルは以下の通りである。

電子カルテ運用マニュアル（情報システム部）、院内感染防止対策マニュアル（院内感染防止対策委員会）、放射線科診療安全マニュアル（中央放射線部），看護基準・手順（看護部）、診療記録等の開示実施マニュアル（医療情報提供委員会）、災害対策マニュアル（防災対策委員会）、血液浄化マニュアル（血液浄化部）、医療機器安全管理指針（中央機材室・MEサービス部）、学校法人埼玉医科大学規程集

②医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年　12回

活動の主な内容：

医療安全対策委員会：医療安全対策に関する調査・教育等を総括する委員会であり、医療法施行規則に定める「医療に係る安全管理のための委員会」として位置づけられている。委員長は病院長をとし、同委員会の所掌する下部組織としての専門小委員会(ヒヤリ・ハット事例等を分析･検討する委員会)」において検討した事項の報告を受け、安全確保を目的として立案された方策を決定する役割を担っている。決定事項は、科長会議において報告，審議される。

（様式第 13-2）

規則第１条の１１第１項各号及び第９条の２３第１項第１号に掲げる体制の確保の状況

③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 30回

研修の主な内容：表の通り

講習会	5月7日	ＲＳＴミニレクチャー	６６
講習会	5月28日	ＲＳＴミニレクチャー	１１１
講習会	6月25日	ＲＳＴミニレクチャー	７３
学習会	6月29日	診療における危険予知とＫＹＴ	３７
講習会	7月2日	ＲＳＴミニレクチャー	１０８
研修会	7月2日	接遇研修	２２３
講習会	7月18日	ＲＳＴミニレクチャー	７６
講演会	7月23日	大学病院が目指すもの（医療安全体制）	４９１
学習会	7月27日	病院の安全と5Ｓ活動	３４
講演会	7月31日	大学病院が目指すもの（医療安全体制）	４５３
学習会	8月10日	ＫＹＴと5Ｓ活動	９
学習会	8月24日	ＫＹＴと5Ｓ活動	２１
講習会	9月24日	ＲＳＴミニレクチャー	３８
学習会	9月28日	コミュニケーションを考える	７５
講習会	10月22日	ＲＳＴミニレクチャー	２５
学習会	10月26日	みんなで考えよう医療事故	５２
研修会	10月26日	個人情報保護研修会	４６１
講習会	11月26日	ＲＳＴミニレクチャー	３５
講習会	12月17日	ＲＳＴミニレクチャー	３３
研修会	1月7日	診療基本マニュアル改正点/一次救命とAED使用について	５００
研修会	1月8日	診療基本マニュアル改正点/一次救命とAED使用について	４８４
研修会	1月9日	診療基本マニュアル改正点/一次救命とAED使用について	２９４
研修会	1月10日昼	診療基本マニュアル改正点/一次救命とAED使用について	８１
研修会	1月10日夕	診療基本マニュアル改正点/一次救命とAED使用について	２３２
学習会	1月11日	診療基本マニュアル改正点/一次救命とAED使用について	１９４
学習会	1月25日	コミュニケーションを考える/みんなで考えよう医療事故	３５
学習会	1月25日	安全な業務を遂行するには	２０
講習会	1月28日	ＲＳＴミニレクチャー	４２
講演会	2月1日	ＮＳＴ特別講演	１８１
研修会	2月1日	医薬品安全管理研修/保険診療研修	１９４
研修会	2月4日	医薬品安全管理研修/保険診療研修	１７０
研修会	2月5日	医薬品安全管理研修/保険診療研修	１６２
研修会	2月6日	医薬品安全管理研修/保険診療研修	１０７
研修会	2月7日	医薬品安全管理研修/保険診療研修	７４
学習会	2月22日	医療現場におけるリスクを考える	１３
講習会	2月25日	ＲＳＴミニレクチャー	２８
研修会	3月12日	接遇研修	２８４
研修会	3月14日	診療基本マニュアル改正点/一次救命とAED使用について	３３
研修会	3月27日	診療基本マニュアル改正点/一次救命とAED使用について	７

（様式第 13-2）

規則第１条の１１第１項各号及び第９条の２３第１項第１号に掲げる体制の確保の状況

④医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備　（ ㊒・無 ） その他の改善のための方策の主な内容： ヒヤリ・ハット事例は、医療安全管理者ならびに医療安全対策委員会の所掌する下部組織としての専門小委員会である医療安全対策小委員会の委員が毎日輪番制で確認し、重要事例を同小委員会（月1回開催）で検討する。検討された内容は、医療安全対策委員会で報告、事故防止の改善方策等の決定を受け、科長会議、看護師長会議、医療安全対策実務者会議で伝達され、各部署へフィードバックされる。またヒヤリ・ハット事例は、厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関へ定点医療機関として報告している。 アクシデント事例は、医療安全対策室室長ならびに病院長へ報告され、医療安全対策委員会の所掌する下部組織としての専門小委員会である医療事故対策小委員会、若しくは医療安全対策調査小委員会により事実関係を調査し、今後の予防策について当該部署より文書による回答を求めるとともに、その内容を病院長ならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関等へ報告する。 ヒヤリ・ハット事例およびアクシデント事例ともに、委員会等における検証の後、各部署の医療安全対策実務者に対して情報提供し、合わせて再発防止策等の周知伝達を図っている。	
⑤専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	㊒(1名)・無
⑥専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊒(1名)・無
⑦医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	㊒・無
・所属職員：　専任（ 2）名　兼任（ 9）名 ・活動の主な内容： 大学病院医療安全対策室規則に定める以下の業務を実施する。 1．医療安全対策委員会の資料及び議事録の作成ならびに保存、庶務に関する事項 2．事故発生時の対応状況についての確認 3．医療安全に係る連絡調整ならびに医療安全推進活動 4．医療安全対策の企画，立案，実施，評価，記録 5．医療安全に係る事項についての大学病院各部及び各委員会との調整 6．医療安全に関連する委員会の議事録，資料の作成ならびに保存 7．事故等が発生した場合、診療録や看護記録等への記載状況の確認 8．事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認	
⑧当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	㊒・無

（様式第 13-2）

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容：①基本的な考え方 ②組織および体制に関する基本的事項 ③従事者に対する研修の関する基本方針 ④感染症発生時の報告 ⑤感染症発生時の対応と連絡、報告体制 ⑥患者等に関する当該指針の閲覧	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
・ 活動の主な内容：定例委員会 毎月1回開催 ・ 委員会内容 ① 分離菌報告、特定分離菌（薬剤耐性菌:VRE・MDRP含む）の検出状況 ② 届出抗菌薬の使用状況および使用届けの提出状況 ③ 針刺し切創、粘膜曝露報告 ④ 手指衛生剤の払い出し量、手指衛生実施回数報告 ⑤ VREスクリーニング実施状況 ⑥ 院内感染対策関連の活動報告 ⑦ ICTラウンド報告 ⑧ 結核小委員会、医療廃棄物委員会報告	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年46回
・ 研修の主な内容：添付資料　院内感染対策研修実施状況に記載	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（ (有)・無 ） 中央検査部細菌検査担当者より、院内感染対策室に特定分離菌検出患者の情報が提供される。その後、院内感染対策室員は患者情報を収集し、当該患者の病棟に出向き病棟看護管理者や感染制御リンクナースと当該患者への感染対策の検討を行い必要な予防策を提示する。必要時、速やかに院長（院内感染防止対策委員会委員長）に報告する。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①ICTラウンドを通して、環境整備やケア場面などにおける標準予防策の実施状況を観察評価している。改善が必要な点については具体的な改善の方策をアドバイスし、ラウンドレポートに記載して当該部署に返信している。当該部署においては改善に向けての取り組みを検討しその内容を提出している。改善状況の進捗については次回のICTラウンドで確認している ②感染対策に関する最新の情報や市中の感染症流行状況等、全職員に周知が必要と思われる情報については院内向けの広報誌（Infection Control 通信）に掲載し発行している。毎月のMDRP、VREの検出状況や針刺し・切創の発生状況についても掲載している	

院内感染対策のための職員研修開催状況一覧
（平成24年度）

月日			対象	講演会名	タイトル
2012年	4月	2日	研修医	新採用者オリエンテーション	感染症と感染対策
	4月	3日	未受講者	病院長との面談および補習研修	
	4月	26日	看護職員	感染制御ミニレクチャー	手指衛生のポイント
	5月	11日	看護職員	感染制御ミニレクyター	ハンドケアについて
	6月	8日	看護職員	感染制御ミニレクチャー	適切な検体採取について
	6月	26日	全職員	埼玉医科大学 HST特別講演会	途上国におけるHIV感染児への訪問看護の効用
	6月	8日 22日 29日	看護職員	感染管理レベルⅠ	感染対策の基本と実践に活かせる感染防止対策
	7月	13日	看護職員	感染制御ミニレクチャー	細菌検査とは？ 細菌検査培養データの見方
	7月	6日	看護職員	感染管理レベルⅡ	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識
		13日			慌てないための職業感染対策
		20日			洗浄・消毒・滅菌の基礎知識
		27日			慌てないための職業感染対策
	8月	10日	看護職員	感染制御ミニレクチャー	場面ごとの適切な個人防護具の選択と着脱
	8月	28日 31日	外部委託 清掃業者	外部委託清掃業者研修	手洗いの重要性 エプロン・ガウンテクニック
	9月	6日	ICT 細菌検査部	感染症インターネット講演会	耐性菌を「入れない」「拡げない」「増やさない」
	9月	10日	外部委託 清掃業者	外部委託清掃業者研修	手洗いの重要性 エプロン・ガウンテクニック
	9月	14日	看護職員	感染制御ミニレクチャー	薬剤耐性菌検出患者の対応 Part.1 MRSA
	9月	25日	クラーク職員	医療クラーク研修	院内感染対策
	10月	12日	看護職員	感染制御ミニレクチャー	薬剤耐性菌検出患者の対応 Part.2 MDRP
	10月	5日 12日 19日	看護職員	感染管理レベルⅢ	1.微生物の基礎知識 2.隔離を必要とする患者対応
	11月	5日			
	11月	9日	看護職員	感染制御ミニレクチャー	インフルエンザ対策
	11月	9日 30日	看護職員	感染レベルⅣ	1.サーベイランスと監視培養 2.アウトブレイク対応
	12月	14日	看護職員	感染制御ミニレクチャー	感染性胃腸炎(ノロウイルス感染症)
2013年	1月	11日	看護職員	感染制御ミニレクチャー	薬剤耐性菌検出患者の対応 part.3 VRE
	1月	29日	全職員	感染管理研修会	当院で起こったノロウイルスアウトブレイク事例から ～感染制御室・病棟との連携と感染対策～
	2月	1日 4日 5日 6日 7日 昼 7日 夕	全職員	感染管理研修会	病原体別マニュアル　講習会 「疥癬対策マニュアル」 「クロストリジウム・ディフィシル関連下痢症感染対策マニュアル」 「ノロウイルス感染症感染対策マニュアル」 「インフルエンザ対策マニュアル」
	2月	8日	看護職員	感染制御ミニレクチャー	血管内留置カテーテル管理・感染予防
	2月	15日	全職員	感染管理研修会	多剤耐性緑膿菌(MDRP)制御からの出発
	2月	22日	全職員	感染管理研修会	院内感染対策における東大病院の取り組み
	2月	26日	全職員対象研修 未受講者	感染管理研修会	病原体別マニュアル講習会 未受講者対象の補講
	3月	11日	全職員対象研修 未受講者	感染管理研修会	病原体別マニュアル講習会 未受講者対象の補講
	3月	14日	全職員対象研修 未受講者	感染管理研修会	病原体別マニュアル講習会 未受講者対象の補講
	3月	27日	全職員対象研修 未受講者	感染管理研修会	病原体別マニュアル講習会 未受講者対象の補講(病院長面接)
	3月	29日	看護職員	新人看護師オリエンテーション	院内感染対策について

（様式第 13-2）

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	㊒・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 12 回

・ 研修の主な内容：
看護部研修会　新人看護師オリエンテーション：平成24年4月3日（麻薬・注射薬）：105名
薬剤部研修会　麻薬の取り扱い：平成24年4月12日：51名
病院全体研修会　平成25年１月7、8、9、10、11日：1785名
平成25年2月1、4、5、6、7日：707名

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・ 手順書の作成　（ ㊒・無 ）　第５版　改編（平成24年8月10日　承認）

・ 業務の主な内容：
・24年8月に業務手順書の改編を行った。今回の改編では大幅な見直しの結果約20%の削減、総論、各論の2部構成に変更、さらに新たに災害時の対応、中央放射線部における造影剤の使用など数項目追記した。
・病院全体研修会において手順書の改編および麻薬について講義し周知徹底を図った。
・昨年度より継続して各病棟で月２回業務手順書に基づく業務の実施状況の確認を行った。
・看護部研修や薬剤部研修会において麻薬に関する取り扱いについて講義し周知徹底を図った。
・医療安全対策室と連携して医薬品に関する安全対策に取り組んだ。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備　（ ㊒・無 ）
ＭＲによる直接訪問、製薬メーカーからのＦＡＸ、メール、厚生労働省、ＰＭＤＡ、メディナビ、各種ホームページなどから情報の収集を行った

・ その他の改善のための方策の主な内容：
・医薬品情報管理室にて情報を収集し緊急性の高い情報に関しては当日又は翌日に情報を発信した。
・重要な情報に関しては電子カルテの掲示版に情報を掲示した。
・医療安全対策室と連携して医療安全新聞に情報を掲載した。
・毎月医薬品情報誌を作成し配布を行い、配布確認記録をとった。

（様式第 13-2）

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	㊒・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： ① 医療機器春期講習会（人工呼吸器、除細動器、生体情報モニタ、輸注ポンプ、血液浄化装置閉鎖式保育器等） ② 医療機器秋期講習会 （人工呼吸器６機種９コース、除細動器、生体情報モニタ、パルスオキシメータ・カプノメータ等）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 （ ㊒・無 ） ・ 保守点検の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、閉鎖機器保育器、ライナック、生体情報モニタ 輸液ポンプ、シリンジポンプ、手術室医療機器各種点検 等	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ㊒・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 中央機材室ニュース 学内LAN（イントラネット）ホームページに配信	